

# 中国語教育における語用面の類義語弁別法について

——類義語辞典の記載を中心に——

浅 野 雅 樹

## 目 次

- 1 はじめに
- 2 語用面に属する弁別法の分類について
- 3 類義語辞典における使用状況
- 4 語用面の弁別法
  - 4.1 “语体”「文体」
  - 4.2 “使用频率”「使用頻度」
  - 4.3 “地域色彩”「方言」
  - 4.4 “感情色彩”「感情義」
  - 4.5 “本义和比喻义”「本義と比喻義」
  - 4.6 “褒贬义”「褒貶義」
  - 4.7 “形象色彩”「形象性」
  - 4.8 “多用于～”「～に多用される」
- 5 問題点
  - 5.1 語用面の弁別を対象とした練習問題
  - 5.2 学習者の誤用からの考察
  - 5.3 弁別法の横の関係
  - 5.4 語彙的な特徴との関係
  - 5.5 辞典における用例文との関係について
- 6 おわりに

## 1. はじめに

類義語の区別を示すための弁別法は一般的に語義、文法、語用の三つの面に分けられる。本稿では、これらのうちの語用面に属する弁別法に対して考察を行う<sup>1)</sup>。趙新 2009、严戎庚 2008、董茜 2006 等を参照すると、語用面に属する約 10 の弁別法があることがうかがえる。

語義面や文法面に属する弁別法と比較すると、語用面の弁別法は類義語弁別全体においては使用頻度が低いと言える。また類義語辞典によっては、ほとんど使用されていないものもあることから、副次的な役割を果たしているという認識ができる。しかしながら、中国語の第二言語教育や外国語教育においては、学習者に語感がない分、語用的な誤りや中間言語表現がしばしば見受けられることが指摘される。充実した中国語教育を行うという観点からすれば、これらの語用面に関する事項は、決して軽視できない教育課題であると言える。

完結した形での体系化が難しいことから、教室内や教材、辞典などで語用的な知識を教育し、学習者の語用的な能力を高めることは非常に難しい課題である。そのため語用論的能力の習得に必要なインプットを量、種類、頻度ともに大きく制限されているという教育現場での現状がある。しかしながら、第二言語環境における学習者が教室外で得られる社会的或いは自然的な語用的知識を、外国語教育の環境では教室内や教材、辞典などにおいて、より充実した教育を行うという課題は存在する。このことを大学等で中国語の授業を担当する教員は十分に認識する必要があると言える<sup>2)</sup>。現行の日本における中国語教育においては全般的に語用面での内容が不足しているが見せせるが、このことは本稿で取り上げる類義語弁別法に対しても関連性があることは論を俟たない。

## 2. 語用面に属する弁別法の分類について

語用面の弁別法は前述したとおり、いくつかの先行論文や辞典の序文などで言及されている。提示されている具体的な方法は下記の通りである。

(表1) 語用面に属する弁別法

	弁別法	分類
吴 2008	风格、感情、比喻	附加义
董 2006	态度、情感、文体、搭配、程度、地域	语用
赵 2009	(风格特点) 语体、场合(感情色彩)褒贬义、中性、对上对下(地方色彩)南方、北方	语用
严 2008	修辞、使用频度、原形变形、语源	语用
	语体、感情色彩(含态度)、形象色彩、时代色彩、地域色彩	色彩
张 2005	频度(常用不常用)、语境	语用
张 1980	感情色彩、态度色彩、风格色彩、语体色彩、形象色彩	色彩

おおよそ(表1)に示したような弁別法があることが分かるが、実際どのような語用面での弁別法が存在するのか、ということについて定説はない。また、全体の弁別法についての分類を見ても、「語用」という用語が使われず、吴 2008、严 2008、张 1980のように“色彩”「語感」或いは“附加义”「付加義」と称されることもある<sup>3)</sup>。またこの(表1)にある弁別法の中で、“褒贬义”や“感情色彩”などは語義面に属するというような見方もある<sup>4)</sup>。

ただ本稿では、これらの分類上の問題についてはあくまで分類の仕方や用語上の問題であると見なし、論議の対象から切り離し、深くは論じない。したがって、“色彩”や“附加义”という類に含まれるとされる弁別法に対しても、語用面に属するという一定程度の判別ができるものは一律に考察の対象とする。

## 3. 類義語辞典における使用状況

下に示す(表2)は語用面の弁別法についての類義語辞典における使用状況である。

(表2)

	《佟》	《袁》	《赵》	《王》	《陈》
見出し語数	2165組	708組	1030組	420組	1405組
褒贬义	174	62	41	14	139
形象色彩	64	5	2	0	3
感情色彩	194	53	86	49	71
使用频率	167	2	5	2	3
语体	678	104	152	178	105
多用于~	696	208	296	68	216
词源	0	4	0	2	5
本义和比喻义	141	67	22	18	77
地域色彩	4	2	5	12	9

語用面の弁別法は、前述した通り、語義や文法面の弁別法と比較すると使用の割合が低いと言える。ただ、(表2)からもうかがえるように、“褒貶義”や“語体”など多用されるものもいくつかある<sup>5)</sup>。また辞典によって使用される割合が著しく異なる“使用頻度”や“形象色彩”などの弁別法も見受けられる。以下、各辞典における特徴を見ていく。最初の佟慧君・梅立崇主编《汉语同义词词典》は他の辞典ではほとんど用いられていない“形象色彩”や“使用頻度”等の弁別法がよく使用されている。二番目の袁晖主编《新华同义词词典》は“本义和比喻义”の使用割合が他の辞典と比べるとやや高い。三番目の赵新、李英主编《学汉语近义词词典》は“語体”、“多用于~”を除くと、全体的に語用面における弁別法の使用は少ないと言える。四番目の王还主编《汉语近义词词典》は“語体”の使用割合が高いが、その他の弁別法はほとんど用いられていない。一番右の陈炳昭编《近义词应用词典》についても全体的に語用面の弁別法の使用は比較的少ないと見なせる。

## 4. 語用面の弁別法

ここでは、主に類義語辞典において使用される語用面に属する弁別法を個別に提示した上で、考察をする。

### 4.1 “語体”「文体」

以下は、類義語辞典における“語体”「文体」の使用例である。

【**礼拜—星期**】<sup>6)</sup>“**礼拜**”多用于口头语体；“**星期**”一般用于书面语体《陈 231》

【**明年—来年**】“**明年**”通用于口语和书面语；“**来年**”用于口语《佟 627》

【**黎明—凌晨—清晨—清早—早晨**】“**黎明**”、“**清晨**”多用于书面语，带有文学色彩；“**清早**”比较口语化；“**凌晨**”、“**早晨**”可以用于口语和书面语《赵 340》

【**道路—途径**】“**道路**”常用于口头语体和政论语体。；“**途径**”常用于书面语体和科技语体《陈 80》

【**景况—境遇**】“**境遇**”是文言词；“**景况**”则口头和书面语体都用。《陈 211》

(表2)で示した通り、語用面の弁別法の中では、この“語体”「文体」が最も多用される。さらに内容を見ると上に示した例からもわかるように「**口語—書面語**」と分ける例が大多数である。【**礼拜—星期**】のように、「**口語**」、「**書面語**」と明確に分ける例の他、【**明年—来年**】のように、一方は「**口語**」であるが、もう一方は「**口語**」と「**書面語**」に通用するという弁別の仕方も多い。また【**道路—途径**】のように、“**政论语体**”、“**科技语体**”といった下位分類に位置づけられる「**文体**」が用いられる例が見受けられるが、このような例は極少数である<sup>7)</sup>。

### 4.2 “使用頻率”「使用頻度」

以下は、類義語辞典における“使用頻率”「使用頻度」の使用例である。

【**培养—培植**】“**培植**”使用頻率比“**培养**”低。《佟 661》

【**凝集—凝聚**】“**凝聚**”用于比喻义的頻率比“**凝集**”高。《佟 644》

【**愉快—快意**】“**愉快**”较“**快意**”常用。《陈 399》

(表2)で示した通り、この弁別法はある一部の類義語辞典においてのみ使用が見られる。特に《佟》などの国内の中国人学習者向けの辞典における使用が多く、対外漢語教育用の辞典ではほとんど用いられていない。対外漢語教育用の類義語辞典においては、見出し語とされる語がどちらも常用される語であり、頻度に関しての高低を判別し難いことが一つの原因として考えられる。

#### 4.3 “地域色彩”「方言」

以下は、類義語辞典における“地域色彩”「方言」の使用例である。

【多亏—幸好—幸亏】“幸亏”多用于北方，“幸好”多用于南方《赵 151》

【索性—干脆】“索性”是方言词，“干脆”是普通话词语《陈 319》

【晓得—知道】“晓得”有方言色彩（多用于南方）《王 413》

（表2）で示した通り、全体的にこの弁別法の使用は少ない。内容は、「北方—南方」というものがほとんどであり、【索性—干脆】のように単に「方言語彙」と「標準語語彙」と示される例も見られる。どの区域の方言であるのか詳細に示されている例は、ほとんど見られない。

#### 4.4 “感情色彩”「感情義」

以下は、類義語辞典における“感情色彩”「感情義」の使用例であるが、内容的には様々な例が見受けられるので、いくつかに分けて示す。

##### ①感情の深さ

【打击—攻击】“打击”的感情色彩不如“攻击”强烈《袁 48》

【苦闷—苦恼】“苦恼”感情上没有“苦闷”深《赵 330》

単に一方の語が、「感情が強い（深い）」といった弁別である。

##### ②严肃(郑重)—随意(日常)

【诞辰—生日】“诞辰”带有庄重、崇敬的色彩；“生日”带有日常生活色彩《袁 51》

【会谈—座谈】“会谈”一般比较正式、严肃；“座谈”比较自由随意《赵 244》

【年级—年龄】“年龄”有郑重色彩。常用于正式场合《佟 642》

類義語弁別における“感情色彩”で多いのが、上に示すような“严肃(郑重)—随意(日常)”という内容である。一方の語が「厳粛、公式的」であり、もう一方の語が「日常的」という上の二つの例のような弁別と、【年级—年龄】のように、一方の語だけに何らかの“感情色彩”を示す弁別が見られる。

##### ③人間関係

【教师—教员】“教师”带有庄重、尊敬的感情色彩，而“教员”没有。《袁 124》

【夫人—太太】“夫人”是书面语，尊敬的意味更重，一般用于社会上层。“太太”除用于尊称，有时也被丈夫用来指自己的妻子。《王 165》

【妈妈—母亲】“妈妈”可用于当面称呼、书面上的称呼，也可以用于当面或背后的指称，还可用于自称。；“母亲”可用于书面上的称呼，可用于当面或背后的指称，一般很少用于当面的称呼和自称。《佟 592》

上の三つの例のように、人に関する類義語について用いられることが多い。多くの場合は一方の語はより「尊敬」の語気が強まるといった内容や、「尊称」として用いられるという内容である。

##### ④主観性と客観性

【怪—很—挺】“很”、“挺”不带感情色彩；“怪”常带亲热、满意、喜爱等主观色彩《赵 207》

【極力－竭力－尽力】“極力”一般用于叙述别人的情况，不用于表示主观态度、答应别人去做某事；“竭力”、“尽力”可以用于叙述别人的情况，也可以用于主观态度《赵 253》

【肥沃－肥美】“肥沃”带有一定的客观性；“肥美”带有一定的主观感情色彩《袁 71》

一種の“感情色彩”として、上の三つの例について言われるような「主観的」であるとされる弁別の例がある。一方の語を「主観性」を帯びるとする、上の二つの例のほか、一方は「主観的」であり、もう一方は「客観的」であるとする【肥沃－肥美】のような例が見られる。

#### ⑤婉曲的、語気が軽い

【仿佛－好像－似乎】“好像”、“似乎”还表示商量的、委婉的语气，“仿佛”没有这样用法《赵 165》

【建议－提议】“建议”语气较客气、和缓；“提议”语气较郑重《陈 193》

【容许－允许－准许】“容许”的语气比较郑重也比较严厉；“允许”语气轻一些，也缓和一些；“准许”多用于上级对下级，语气最终《袁 222》

上の三つの例において用いられている“委婉、和缓、语气轻”「婉曲的、温和である、（語気が）軽い」という内容がよく見られる。

#### ⑥副詞の語気について

【经常－常常－常】他经常（/常常/常）去图书馆看书。这种表达一般性内容的句子，三个词都可以用，但“经常”较正式《王 272》

【立刻－马上】“立刻”有紧迫的感情色彩。；“马上”紧迫的感情色彩没有“立刻”浓《佟 563》

前掲の【怪－很－挺】、【極力－竭力－尽力】も含めて、上の例のように副詞の類義語の語気について用いられることが多いと言える。

### 4.5 “本义和比喻义”「本義と比喻義」

以下は、類義語辞典における“本义和比喻义”「本義と比喻義」の使用例である。

【气候－天气】“气候”还有比喻用法，比喻社会的环境或形势；“天气”没有这样的用法《趙 390》

【色彩－颜色】“色彩”还可以比喻事物、思想、感情的特点、风格，“颜色”不能《趙 427》

【驯服－制服】“驯服”原义为经过训练使之顺从，多用于性情暴躁的野生动物，现也比喻用于人和自然灾害《袁 288》

【凝集－凝聚－凝结】“凝集”不常用于比喻；“凝结”常用于比喻，多指心血、汗水、思想、感情等；“凝聚”常用于比喻，指思想、精神、感情、智慧、心血等《陈 256》

一方の語には「比喻義」があり、もう一方の語にはない。或いは、一方の語が「比喻義」でよく使われる、という弁別が見られる<sup>8)</sup>。このような比喻義は“气候”、“色彩”の例のように一般辞書<sup>9)</sup>において本義と分ける語義項として挙げられているものがあるが、“驯服－凝聚－凝结”の比喻義のように語義項として挙げられていないものもある。

### 4.6 “褒贬义”「褒貶義」

以下は、類義語辞典における“褒贬义”「褒貶義」の使用例である。二つのタイプに分けて示す。

#### ①語彙レベルでの褒貶義

【豪華—奢华】“奢华”指生活上极度华贵，挥霍无度，贬义《袁 99》

【果断—武断】“果断”指经过调查研究和冷静分析产生的正确决断，是褒义词；“武断”指考虑问题、处理事情不顾客观实际，不听他人意见，轻率地做决定、下结论，是贬义词《袁 95》

【幸运—侥幸】指碰巧遇到了好机会，多含褒义；“侥幸”有时有企图意外成功而不积极努力地意思，含贬义《袁 283》

【粗心—马虎】它们都是贬义词《陈 70》

これらは語彙レベルで判別できる「褒貶義」であると見なせる。一方の語が「褒義」で、もう一方の語が「貶義」であるとする弁別が見られる。また、最下の例のように、類義語のどちらも“贬义词”である、とする例も見られる。

#### ②語彙を超えるレベルでの褒貶義

【目的—目标】“目标”一般不用于消极方面，多与褒义词搭配；“目的”可以用于积极方面，也可以用于消极方面，能跟褒义词搭配，也能跟贬义词搭配。《赵 364》

【结局—下场】“结局”中性词，可以是“悲剧性的结局”，也可以“喜剧性的结局”。“下场”贬义词。《佟 471》

【刚强—倔强】“倔强”有时表示固执，强硬，不随和，不听劝，带有贬义色彩。“刚强”没有这个意思。《袁 84》

【崇敬—崇拜】“崇敬”是褒义词；“崇拜”是中性词，有时用于贬义。《袁 36》

【生产—制造】“制造”还表示人为地造成某种气氛、局面、事件，多含贬义，宾语一般是“事故、麻烦、矛盾、纠纷、困难、障碍、气氛”等；“生产”没有这样的用法。《赵 435》

【手段—手法】用于贬义时，“手段”贬义色彩很强，表示非常不好的、狠毒的方法，“有手段”表示狡猾，善于做坏事；“手法”语义比“手段”轻。《赵 449》

以上の類義語弁別においては“褒贬义”「褒貶義」により弁別されている。ただ、これらは語彙レベルで判別できるものと異なり、【目的—目标】、【结局—下场】のように連語レベルや、【刚强—倔强】、【崇敬—崇拜】<sup>10)</sup>のように文レベルにおいてはじめて褒貶義を定めることができる例である。また【生产—制造】や【手段—手法】のように、語のある意味（語義項）においてのみ見られる褒貶義を示す例もある。

また、これらの弁別において、“中性词”という表現が見られるが、これはあるケースでは褒義を示し、あるケースでは貶義を示すというように、両方の意味を示す可能性がある語について用いられていることがわかる。

#### 4.7 形象色彩「形象性」

以下は、類義語辞典における“形象色彩”「形象性」の使用例である。

【空气—气氛】“空气”指构成地球周围大气的气体，它的比喻义指气氛，但比“气氛”形象些《陈 222》

【核心—中心】“核心”带有形象色彩，能令人想到果实的内核《袁 101》

【扫兴—败兴】“扫兴”着重于兴致一下子全被扫除净尽，有形象色彩《佟 767》

【突出—特出】“突出”着重于非常明显超过一般。有凸出来的形象色彩《佟 885》

【晚年—暮年】“暮年”有以夕阳西下比喻已届人生终结时期的形象色彩《佟 901》

【欢畅—欢腾】“欢腾”着重于非常高兴，欢喜得手舞足蹈。有形象色彩《佟 376》

【回忆—回顾】“回顾”用其比喻义，着重于比喻有意识地使过去一个阶段的历史在相像中再现。带有回过头去看的形象色彩《佟 385》

最初の【空气—气氛】の例のように二つを比べて、一方の語の方が、“形象色彩”が強いといった弁別が見ら

れる。ただ、【核心—中心】から下の例のように、ほとんどはどちらか一方の語に“形象色彩”があるということを示すものである。(表2)で示したように、この“形象色彩”という弁別法は、全く用いられていない辞典もある。主に国内向けの辞典での使用が多く、対外漢語教育向けの辞典ではほとんど使用されていないことが指摘できる。

#### 4.8 “多用于～”<sup>11)</sup>「～に多用される」

類義語辞典において“多用于～(常用于～)”の形式で示される弁別が非常に多い。また内容も多岐にわたっている。以下では、語に関わる「人間関係」と「使用される場、時」について挙げる。

##### ①人間についての様々な関係

【看望—探望】“看望”可以用于上级对下级的到访慰问，“探望”没有这样的用法《赵 318》

【准许—容许—允许】“准许”一般用于上级对下级《陈 298》

【爱戴—拥护—敬爱】“爱戴”常用于群众对上级或个体对群众；“拥护”常用于群众对领导机构或领导人；“敬爱”可用于下对上，也可用于地位平等的人们之间《王 3》

この三つの類義語に用いられている例はすべて動詞である。その内容を見ると、動詞に関する動作者と受動者の関係により弁別がなされ、人間の上下関係を示すものである。

【熟识—熟悉—熟习】“熟识”、“熟悉”可用于人与人之间的各种关系，也用于对事物各种情况的了解。“熟习”常用于学术、技术等方面《陈 314》

【年纪—年龄—岁】“年纪”只用于人(或用于拟人事物)。“年龄”则可用于人、动植物、天体等《王 326》

【高等—高级】“高等”多用于“教育、学校(一般为大学)、人、动物、植物等”；“高级”多用于“中小学、干部、教师、知识分子、工程师、将领、公务员、职称、法院、会议、阶段、形式”等《佟 303》

この三つの例における弁別の内容は、主に「人間、动植物、事物」に対して用いることができるか否か、ということである。

【化妆—化装】“化妆”可用于演员，也可用于非演员；“化装”用于演员《佟 374》

【交际—交往—来往】“交际”一般不用于具体的、确定的人或团体之间；“交往”、“来往”都比较具体的联系和接触，可以用于具体的、确定的人之间；“来往”还可以用于团体之间；“交往”是人与人之间互相来往，不能用于团体之间《赵 285》

【教师—老师】“老师”可以用于当面称呼或指说第三者《赵 288》

【化妆—化装】の「役者かどうか」といったより詳細な記載や、【交际—交往—来往】の例のように、より複雑な人間関係を示すことに拠り、弁別がされている例がある。さらに最後の【教师—老师】のように語の機能に言及する例も見られる。

##### ②使用される場面、時間について

【手段—手法】“手段”可用于政论或科技语体；“手法”多用于文学艺术创作方面《陈 312》

【威胁—威逼】“威胁”除用于人外，还可用于政治、军事、自然界乃至抽象事物《袁 260》

【伪装—假装】“伪装”还常常用在军事上。“假装”很少这样用《袁 262》

【客人—来宾】“客人”可以用于日常生活中较随便的场合；“来宾”多用于较正式、较隆重的场合《赵 325》

【文明—文雅】“文明”还可用于社会和集体；“文雅”主要用于指具体人的言谈举止有修养《袁 263》

【稀罕—稀奇】“稀罕”多用于客观事物；“稀奇”多用于人们的感受《袁 268》

【掉—落】“落”用于自然现象(例如雪、霜、尘等)的降落,这时一般不能用“掉”《王 136》

【感受—感触】“感受”可用于心理方面,也可用于生理方面。;“感触”多用于心理方面。《佟 298》

上に示した例は、主に語が使われる場や文脈に関して、「政治、社会、軍事、日常生活、公式の場、文学、科学技術、自然現象、心理」など比較的大きな分類が示される。

【竞赛—竞争】“竞赛”多用于体育、文娱、工作、学习、生产劳动、军事”等有组织的比赛活动;“竞争”除了用在“工作、学习、生产”等方面以外,还常用于商业贸易等方面《赵 305》

【公布—发布—颁布】“公布”可用于高级领导机关或成员宣布“法律、法令、文告、提示、决议、战报”,也可用于一般机关、单位、团体或个人通知某些具体事项;“发布”用于政府、机关、团体的领导人宣布“命令、指示、决议、新闻”等;“颁布”用于较高级的领导机关或国家领袖以书面形式宣布法令、条列等政策性文告。;“公布”可用于普通的场合;“发布”只用于庄严而郑重的场合。;“颁布”只在庄严而郑重的场合使用《佟 315》

【吆喝—呐喊】“呐喊”用于人数多,声势较大的场合《陈 383》

【急忙—连忙—赶忙】“急忙”用于情况紧急的时候;“连忙”不一定用于情况紧急之时,可用于人事的应对与谦让《佟 410》

【滑动—滚动】“滑动”可用于“脚、轮子、石块、冰块、笔尖、手”等;“滚动”可用于“身躯、轮子、石块、冰块、足球、泪珠”等《佟 374》

上に示した例は、主に語が使われる場や文脈に関して示されている例である。ただ、上の【手段—手法】から【感受—感触】における弁別内容と比較すると、“竞赛”についての“多用于体育、文娱、工作、学习、生产劳动、军事等有组织的比赛活动”という例のように、より詳細に示されている例である。また最後の【滑动—滚动】の例のように、動作に関する対象物が詳細に記される弁別もある。

## 5. 問題点

前で述べた点を踏まえ、語用面の弁別法に関する問題点をいくつか提示する。

### 5.1 語用面の弁別を対象とした練習問題

教育の場では、学習した点を復習させ、さらに能力を高めるための適当な練習問題が必要となる。類義語に関する練習問題として、最もよく使われるのは、文中のカッコ内に選択肢(四つの場合が多い)から適当な語句を入れるという形式の問題である。ただ、この問題形式は、類義語間の語義や文法面における弁別内容を理解しているかどうかを試されるものが多く、語用面に関する弁別内容を理解しているかどうか問われているものはほとんどない<sup>12)</sup>。したがって、このような形式の問題に対して、正答が得られるようになったとしても、語用面における類義語間の区別ができる能力や知識が身につけていると見なすことはできない。

胡(2009, p42)にはある中国語の文をアウトプットする練習方法として、「示された日本語を中国語に直す」という通常形式の練習問題と、「設定されたコミュニケーションに合った文を作る」という二つが提示されている。“请问,你是中国人吗?”という文をアウトプットするための練習として、以下のような二つの方法があるとされている。

- 「お尋ねします、あなたは中国人ですか」を日本語に訳しなさい
- 大学生協で中国人っぽいという女性を見かけました。思いきって、彼女に中国人かどうか尋ねてみましょう 『胡玉華 2009, p42』

このような二つのタイプの問題を作成することができるが、言語知識だけでなく、実際のコミュニケーションで応用できる能力をつけるためには後者のような問題形式が有効であることが述べられている。

類義語に関する語用面での弁別を学習者に身に付けさせるには、このように場面或いは文の発話者がある程度特定化した上での問題が必要になることが考えられる。例えば、【告诉—通知】《赵 190》では、文法や語義面の弁別がいくつかある他、“告诉”はインフォーマル、畏まらない場面で使用される傾向にあり、“通知”は反対にフォーマルで重要なことに対して使用されるという語用面での弁別が示されている。この点を問う練習問題としては以下のような形式が考えられる。

問題：それぞれの（ ）内に、“告诉”と“通知”のうち相応しい方を選びなさい。

[授業が終わり、下校途中で仲のよいクラスメートにある事を伝えようとしています]

我（ ）你一个好消息。

[ある会議において、会議の出席者に次回の会議の予定を伝えようとしています。]

（ ）各位下次会议的地点和时间。

ただ、文法面の賓語を伴えるか否か、というように正誤を明確に区別できるケースと比べて、語用面における弁別法は全体的にあくまで傾向を示す内容にとどまるものが多いという特徴が見受けられる。例えば、「書面語—口語」という弁別法について言えば、実際は中間的な文体や使用場面、つまりどちらか判別し難いということがかなりの割合で存在するのが実情である。したがって、類義語辞典における弁別の表記も「口語と書面語の通用」、或いは「書面語において用いられることが比較的多い」というように明確な線引きがなされているわけではない。

これらのことは、問題作成の際、解答を単一化することや、完結する体系や規則に基づいて正誤を明確にするといったことが求められることと抵触するものであると言える。したがって、語用面での弁別に関する練習問題の作成については、これまでほとんど着目されることがなかったと考えられる。ただ辞典や教材で示す以上、学習者の語用面における弁別に対する理解力を高めるための何らかの練習問題は不可欠であり、教員側は重要な課題として認識しなければならない。

## 5.2 学習者の誤用からの考察

我坐火车去了，一个人前往(去)祖母家 『呉麗君 2005, p325』

初次见面，请多关照。(叔叔、阿姨，你们好!) 『呉麗君 2005, p353』

上に示した例は、よくある日本人学習者の誤用例であるが、なぜこのような誤りがされるのかという問題を類義語弁別の側面から考えてみたい。まず一つ目の例は、“去”が使われるべき所に“前往”が誤用されているという点が指摘されている。まず考えられる理由としては“去”は口語と書面語に通用されるが、“前往”は書面語であるという語用的な弁別内容から、文意と照合すると不相当であるということがある<sup>13)</sup>。ただ日本人のような外国人の学習者にとっては単に「書面語—口語」という弁別だけでは不十分であり、もう少し詳細な情報を提示する必要がある。例えば、“前往”は主に、「駅や空港における業務上の放送」や、また「政府の要人やある代表団、団体などが公式にいずれかの地へ赴く」といった場面で使用される。一方、日常的な場において、例えば「一個人が私的に友人や親族の家に行く」という場合には使わない。このように詳細な記載がされ、強調されることにより、学習者の上のような誤用を防げると考えられる<sup>14)</sup>。

次に二つ目の例は、ある日本人が中国人の友人の両親に初めて会う時にする挨拶フレーズとして、本来“叔叔、阿姨，你们好!”というのが最も適当であるが、日本人の学習者はよく“初次见面，请多关照”というフレーズを用いるということが指摘されている。これは、日本人学習者が日本語の「はじめまして、どうぞよろしくお願ひします」という挨拶フレーズをそのまま中国語に置き換えて使用してしまうという理由が考えられる。ただ、もう一つ考えられる理由は、友人の両親に対しての適当な呼称語（日本語では「おじさん」に相当する）の理解ができてい

ないということである。一定レベルの学習者であれば、目上(年上)の男性に対する呼称として、“先生”、“师傅”、“父亲”、“叔叔”、“大爷”、“大哥”といった語は学習済みである。ただ、「友だちの父親」という関係の人にはどれを使うべきであるのか、瞬時に判断できないといった状況が考えられる。このことは学習者が、いくつかの語の間の語用面での弁別ができていないと見なすことができる。単に、性別や年齢だけでなく、ここで示した「友人の両親」の他、「会社の上司の奥さん」、「自分より年上であると思われる知らない男性」「留学先の大学の事務職員」「買い物場で、自分よりかなり年上である女性店員」といった人に対して、どう呼び掛けるのか、日本人の学習者にとって問題になることが多い。より一層詳細な人間関係を提示し、その場面で使用するのに適当な呼称語を教えることにより、このような誤用を防ぐことが可能である。

これらの点を踏まえると、類義語辞典においてはどのように弁別内容を記すのが効果的であるのか。まず、語が使用される場面と語に関わる人間関係をより特定化することが挙げられる。現存の類義語辞典、或いはほとんどの一般辞書やテキストでは「書面語－口語」「公式的－日常的」、「目上(年上)－目下(年下)」といった内容はよく見られるが、この他の内容は非常に少ない。つまり、これら以上に詳細な使用される場面と語に関わる人間関係についての記述はほとんど見られない。これは語用的な事項については依拠する体系化が確立していないことが原因の一つとして考えられる。ただ教員側は学習者の状況を詳細に観察し、どのような情報を提示すべきなのか、課題の一つとして考えなければならない。

この点に関しては、さらに類義語辞典の見出し語の選定との関連性がある。前に挙げた例のように“去”を使うべきところに“前往”を使うといった例はよく見られるが、類義語辞典で“去”と“前往”を見出し語としているものは見当たらない。これは、一般的に一組の類義語として定められるのは、語彙的な意味(本義)の近さ(類似性)が基準とされるからである。また類義語辞典において、人間関係に関する呼称語についての弁別は、“父亲－爸爸”《杨》《王》、“老师－教师”《赵》“などが見られるが、その他のものはほとんど見られない。どのような語をセットで類義語と見なし、類義語辞典の見出し語とするかという問題に対して、第二言語教育や外国語教育の場では語義や文法面のほか、語用面における弁別内容も注視した上、学習者の誤用例を参考にして選定する必要がある<sup>15)</sup>。

### 5.3 弁別法の横の関係

類義語辞典においては一組の類義語に対して一般的に3～4くらいの弁別法が用いられる。類義語分析における個別の弁別法を単独で捉える事ができる他、複数の弁別法の間で、内容についてのある程度の相関性があることが指摘できる。

【毕生－一生】“毕生”有郑重的态度色彩。用于书面语。；“一生”使用频率比“毕生”高。通用于口语和书面语。《佟 48》

【纯正－纯粹】“纯正”褒义词。用于书面语。；“纯粹”使用频率比“纯正”高。中性词。通用于口语和书面语。《佟 144》

【捐躯－舍身】“捐躯”带有尊敬的态度色彩。含褒义。用于书面语。；“舍身”中性词。使用频率比“捐躯”高。多用于书面语,书面语色彩不如“捐躯”浓。《佟 505》

【愤慨－愤怒】“愤慨”多用于书面语,有郑重色彩,是褒义词;“愤怒”在书面语和口语中都通用,是中性词。《袁 73》

以上の例のような弁別内容はよく見受けられるが、これらの例を参考にすると、語用面に属するいくつかの弁別法について、以下の(表3)のような相関性があることがわかる<sup>16)</sup>。

(表3) 類義語【A-B】語用面の弁別内容についての相関性

類義語 \ 弁別法	褒貶義	語体	感情色彩	使用頻率
A	+	書面語	+	低い
B	- (中性)	書面語・口語 (通用)	-	高い

ここで示したのは、語用面についての弁別法だけであるが、さらに考察範囲を広げると、語義面や文法面の弁別法とも、ある程度の相関性があることがわかる。教員側はこのような弁別法の間相関性をうまく利用することにより、類義語さらには語彙教育全般についての効果を高めることができると考えられる。

#### 5.4 語彙的な特徴との関係

類義語についての語用面での弁別は、二者択一的に弁別できるものではなく、あくまで比較の対象となる語との相対的な特徴を記すものに過ぎないことが多い。そのせいか、語用面での弁別内容は、その多くが語彙的な特徴としても顕著であると見なせる例は比較的少ない。したがって、同じ一組の類義語に対してある語用面での弁別法が使用されていた場合でも、別の辞書では全く触れられていない例が多く見受けられる。

【具备－具有】“具备”的事物都是好的、满意的，“具有”的事物还可以是不好的、不满意的《赵 310》

【感动－激动】引起“感动”的事物都是好的、积极的事物，引起“激动”的事物可以是好的、积极的，也可以是不好的、消极的《赵 184》

【忽然－突然】“忽然”在口语中用得更多些《王 228》

上の【具备－具有】と【感动－激动】には“褒貶義”と“感情色彩”という語用面の弁別法がそれぞれ使用されている。ただ、これと同じ類義語が《陈》と《朱》にあるが、その弁別の中で“褒貶義”と“感情色彩”は全く使われていない。また【忽然－突然】には“語体”が示されているが、《佟》と《朱》における同じ類義語の弁別では、“語体”については全く触れられていない。

また同じ類義語に対しての弁別内容が辞書によって異なる例もいくつか見受けられる。

【怪－挺－很】“挺”、“很”不带感情色彩《赵 206》

【怪－挺】“挺”感情色彩轻一些《张 320》

【后果－恶果】“后果”中性词；“恶果”贬义词《佟 366》

【成果－结果－后果－效果】“后果”指最后的结果，多指坏的方面，是贬义词《赵 84》

【产生－发生】表示出现新情况时，“产生”的对象多为消极的情况。“发生”没有这个限制《朱 112》

【产生－发生】从二者搭配词语的特点看，基本上有这样一条规律：“产生”主要搭配的是好的内容，而“发生”则以搭配不好的内容为主《刘 53》

【否则－不然】用“否则”或“不然”都较书面化《王 164》

【否则－不然】“否则”多用于书面语。“不然”多用于口语《佟 270》

【不然－否则－要不】“不然”主要用于书面语，“否则”用于书面语和口语，“要不”主要用于口语《赵 56》

【否则－不然】“否则”多见于书面，“不然”多用于口语《杨 438》

上の例では、“感情色彩”、“褒貶義”、“語体”という弁別法が使用されているが、辞書によって内容に相違が見られる。まとめて述べると、上から“挺”は“感情色彩”が含まれるのかどうか。“后果”は“中性词”、“贬义词”のどちらであるのか。“产生”は良い意味の語と結び付くのか、悪い（消極的）語と結び付くのか。“不然”は書面語的であるのか、口語的であるのか。これらの点については辞書に拠って、異なる内容が書かれているのがわかる。

このような相違は、辞典の使用者である学習者に対して混乱をもたらしてしまうことになるので、教育の場では改善の余地があると言える。これは、語彙体系や言語事実よりも、辞書の編者の語感に基づいて弁別が行われていることに拠るためであると言える。ただ、もう一つの理由は、二つ或いは三つの類義語間の相対的な特徴を注視しすぎる反面、類義語とされる語自身が持つ語彙的な特徴を軽視している結果であることが考えられる<sup>17)</sup>。日本人のような非ネイティブの学習者に対する類義語弁別の目的は、二つ或いは三つの語の区別を知るばかりでなく、その語自身の語彙的特徴を学ぶということも考慮に入れる必要がある。

## 5.5 辞典における用例文との関係について

類義語辞典においては類義語に対する弁別の他、用例文を提示するのが一般的である。弁別法による弁別内容が提示された後、その理解を増進させるための用例文がいくつか提示される。例えば、類義語である二つの動詞に対して、一方は賓語を伴えるが、一方は伴うことができないと弁別した後に、その動詞が賓語を取る用例文を提示し、もう一方の動詞はこの文では使用できないと示す。この賓語の例は文法面における弁別法であるが、語用面での弁別においても同様に、その内容が反映されるような用例文の提示がなされる。ただ語用面についての用例文は、文法や語義面に関するものより、弁別内容との関連性という点で、慎重に選出し提示する必要があると言える。以下、ある類義語辞典における語用面の弁別と、それに応じた用例文の例を示す。

【谦虚－谦逊】“谦虚”口语和书面语都可用；“谦逊”比较文雅,只用于书面语。

- (1) 雷锋谦虚地微笑着说：“雷锋也很平常。”
- (2) 他们的气质是那样的淳朴和谦逊，他们的胸怀是那样的美丽和宽广。《袁 207》

まず、【谦虚－谦逊】の例について、弁別では“谦虚”が口語、書面語の通用で、“谦逊”は書面語で、「優雅、高尚」といった感情義が具わると示されている。ただ、その下に示されている二つの用例文は口語体なのか、書面語体なのか、学習者にとっては見分けることが難しい文であると言える。したがって、二つの用例文は、学習者が弁別内容を理解するための参考になり得るとは考えにくい。

【礼品－礼物】“礼品”一般比较贵重，带有庄重色彩，多用于正式场合，常与“赠送”搭配,使用范围比“礼物”小；在一般场合都用“礼物”，“生日礼物”是固定说法：

- ・这对大熊猫是中国人民赠送给美国人民的珍贵礼品。(礼物)
- ・我们向这对新婚夫妇赠送了精美的礼品。(礼物)
- ・这束玫瑰是朋友送给我的生日礼物。(\*礼品)
- ・张老师把那本书作为礼物送给了他。(\*礼品)
- ・你喜欢他送给你的礼物吗？(\*礼品)
- ・这是我送给你的礼物。(\*礼品) 《赵 341》

【礼品－礼物】については、“礼品”が「厳粛」という感情義を持ち、また重要な正式な場で使用され、“礼物”は一般的な日常的な場で使用されるという語用面の内容が記されている。その下の用例文は、上の二つは両方が使える文、下の五つは“礼物”が使える、“礼品”は使えない文である。これら七つの用例文の中には、“礼品”に対する「厳粛で、正式な場で使用される」ということを辞書の使用者に再認識させる文は見当たらない。下に示される五つの用例文は典型的に日常の場における文であり、このような場では“礼物”だけが使える、“礼品”は使えないとすることで、“礼品”は反対に厳粛で正式な場で使用されるということを意識付けることもできる。しかし、やはり“礼品”が厳粛で正式な場で使用されていることが明確で、“礼物”が使えない(或いは使いにくい)用例文も提示した方が辞書の使用者の理解力が高まるのではないかと考える。

また、用例文の文意も十分に検討した上で提示することが必要となる。例えば、一番上の用例文の意味は、国家

に関する事で、まさに「厳粛で、正式な場」であると読めるが、その用例文の横に“礼物”でも可であると記されている。そうすると辞書の使用者は、まず弁別で“礼品”が「正式」、「礼物」は「日常」と解しても、用例文に拠って、この線引きがあいまいになってしまうことが想定できる。

【境地－田地】“境地”用于正式场合，多在书面语里使用。

(9) 一个人在不同的境地，读同一本书，可以品尝到不同的滋味。

(10) 在人均只有半亩土地上做文章，只能是处于“吃不饱、饿不死”的境地。

“田地”多在口语里使用。

(11) 他怎么也没想到会闹到这步田地。

(12) 到了这步田地，我也只好顺其自然。 《朱 488》

この【境地－田地】についても、その下に示されている用例文が、「口語体」なのか、「書面語体」や「正式な場」であるのか、ややわかりにくい。“境地”は「多く正式な場で使用される」とあるが、用例文の(9)(10)は、これらがどういう場で使用されているのか断定するのが難しい文である。また“田地”は「多く口語で使用される」とあるが、用例文の(11)(12)が典型的な口語文であるとは見なし難い。辞書の使用者が、“田地”が口語体で使用されるという認識を高めるための用例文としては、この(11)(12)が必ずしも適当であるとは言えない。

類義語辞典における用例文は、一般的に大多数が単文の形式で示されるため、その文に関する前後の文脈や出典までは明示されない。したがって、語用面での弁別内容を反映させた、使用者にとってわかりやすい用例文を提示することは、文法面や語義面での弁別内容よりも難しいと言える。しかし、用例文の選定に際しては、できるだけ使用場面や発話者、前後の文脈などがわかりやすく、また前で記されている弁別内容と関連性が高い文を提示することが求められる。

## 6. おわりに

前述したように、類義語辞典における語用面の弁別法は、語義面や文法面の弁別法と比べると、使用割合が低い。類義語というのは、語義が近い複数の語を指すものであり、弁別内容は語義面に関することが中心となり、文法や語用に関する事は周辺的で、副次的になることは言うまでもない。これは、類義語弁別に限らず、語彙教育全般についても言えることであるが、体系的に乏しい語用面での内容は、教員側から見れば、重要性は認識していても、教えるのが難しく、教育内容から除外してしまう傾向にある。とりわけ紙幅に制限のある類義語辞典（一般辞書も含めて）<sup>18)</sup>において、語用面に関する事を明示することは、語義や文法面に関する事と比較すると、適さない面が大きい。ただ、日本人の中国語学習といった外国語教育の場では、学習者は言語知識を獲得するという事に留まらず、コミュニケーション能力を向上させるという目的がある。このことを考慮すれば、類義語弁別については現行の語義中心の方法に加えて、さらに語用面での弁別についても充実させるということを考えていく必要がある。いずれにせよ、まず類義語弁別の角度から数多くの語用面に関する学習者の誤用や中間表現を収集し、分析する必要がある。その上で、これらの点についての体系化を試み、教育の場でどう指導するか<sup>19)</sup>、ということを検討しなければならないが、これらについては今後の課題とし研究を継続したい。

### (注)

1) 筆者はこれまで、浅野 2009a、浅野 2009b で語義面についての弁別法に対して考察を行った。

2) 学習者に関する第二言語習得環境と外国語環境の相違については、清水 (2009、p227) に詳しい。

3) また胡 2006 においては、“色彩意义”という称し方も見られる。

4) 例えば楊 2004 では弁別法の分類において、“感情”については“感情意义”と“感情色彩”に分けられていて、前者は語義面に、後者は用法面に属する弁別法であるとされている。

- 5) (表2)において最も使用割合が高いのは“多用于~”である。これについては、辞典の表記に従い、そのままカウントした。ただ本文でも示したように実際にこの形式で示される内容は様々であり、これを一つの弁別法であると見なせるかどうかという点については検討の余地がある。
- 6) 本稿で用いる記号の【 】の中に示されるのは、類義語辞典で見出し語とされる例である。
- 7) 中国語教育に関係する文体の分類と体系については周芸 2010 を参照した。
- 8) 類義語分析における「比喻義」の必要性については張博 2008 に詳しい
- 9) 『中日辞典(第二版)』小学館を参照した。
- 10) 【刚强—倔强】《袁 84》には、“这人倔强起来, 九条牛也拉不回来。”、“倔强而又自负, 使他身上带着一种冷酷的气息。”という二つの用例文。【崇敬—崇拜】《袁 36》には、“凡是英勇抗战的军队和在抗日战争中牺牲的官兵, 功在国家, 名留青史, 永远受到后人的崇敬和纪念。”、“美术家如罗丹, 是一面造石像, 一面崇拜自己的创造。”、“应该充分注意金钱崇拜的负面作用, 采取有效的措施进行教育。”という三つの用例文が示されているが、それぞれの語の褒貶義はこの用例文を参考にして、はじめて認識できるものであると言える。
- 11) ここで挙げるのは辞典において、“多用于”の他、“常用于”、“一般用于”等の表現で弁別が示される例である。本文でも述べたが、内容は様々で、中には前で述べた弁別法と重複するものもある。
- 12) 詳細は浅野 2011 を参照。
- 13) 呉 (2005、p 325) を参照
- 14) 勿論、“前往”は“由”と呼応して用いるといった文法面の弁別も重要である。
- 15) 語義の近さだけでなく、学習者が混同をしやすという観点から類似しているという語の間の関係を“易混淆词”と称し、一般的に言われる類義語とは区別する見方がある。張博 2007 を参照。
- 16) これらはいくまで傾向として認識できるものであり、無論、例外もいくつか見受けられる。例えば、【名声—名气】《袁 173》において、“名气”は“褒义词”であるが“多用于口语”とされている。
- 17) 語用面の弁別法である“使用频率”「使用頻度」は比較の対象となる語との相対的な特徴を示すに過ぎないので、語自身の特徴とはほとんど関係がないものと言える。
- 18) この点については、一定量の文章を提示できるテキストなどでは可能であることが考えられる。
- 19) 語用論全般に関する教室指導の効果については清水 (2009、p255) に詳しい。

#### 【主要参考文献】

- 浅野雅樹 2009a「中国語教育における類義語弁別法“范围大小”と“词义轻重”について」『下関市立大学論集』第52号3巻
- 浅野雅樹 2009b「中国語教育における類義語弁別法“词义重点”と“具体—抽象义”について」『下関市立大学論集』第53号2巻
- 浅野雅樹 2011「類義語をどのように教えるか—弁別法の使用を中心に—」『中国語教育』第9号 中国語教育学会学会誌
- 清水崇文 2009『中間言語語用論概論』スリーエーネットワーク
- 胡玉華 2009『中国語教育とコミュニケーション能力の育成「わかる」中国語から「できる」中国語へ』東方書店
- 呉麗君、西川和男 2005『中国語の誤用分析—日本人学習者の場合』関西大学出版部
- 周芸、張永芹、張婧 2010〈論汉语作为外语学习者的语体能力〉《云南师范大学学报(对外汉语教学与研究版)》第1期
- 胡亮节 2006〈论对外汉语教学中的近义词辨析〉《云南师范大学学报(对外汉语教学与研究版)》第4期
- 張博 2007〈同义词、近义词、易混淆词:从汉语到中介语的视角转移〉《世界汉语教学》第3期
- 張博 2008〈第二语言学习者汉语中介语易混淆词及其研究方法〉《语言教学与研究》第6期
- 董茜 2006〈论对外汉语教学中语用层次上的同义差异〉《云南师范大学学报(对外汉语教学与研究版)》第4期
- 吳琳 2008〈系统化、程序化的对外汉语同义词教学〉《语言教学与研究》第1期
- 楊寄洲 2004〈课堂教学中怎么进行近义词语用法对比〉《世界汉语教学》第3期
- 趙新、李英主编 2009《学汉语近义词词典》商务印书馆
- 严戎庚主编 2008《现代疑难同义词词典》中华书局
- 張志毅、張庆云 2005《新华同义词词典中型本》商务印书馆
- 張志毅 1980〈同义词词典编纂法的几个问题〉《中国语文》第5期
- 小学館編 2002『中日辞典第二版』小学館

#### 【用例出典と略称】

- 《朱》朱景松主编 2009《现代汉语同义词词典》语文出版社
- 《佟》佟慧君、梅立崇主编 2002《汉语同义词词典》商务印书馆

- 《刘》刘乃叔、敖桂华 2003《近义词使用区别》北京语言大学出版社
- 《陈》陈炳昭编 2001《近义词应用词典》语文出版社
- 《袁》袁晖主编 2003《新华同义词词典》商务印书馆
- 《赵》赵新、李英主编 2009《学汉语近义词词典》商务印书馆
- 《王》王还主编 2004《汉语近义词典》北京语言大学出版社
- 《张》张志毅、张庆云 2005《新华同义词词典中型本》商务印书馆
- 《杨》杨寄洲 2005《1700对近义词语用法对比》北京语言大学出版社